



スキルアップ補助金利用内容について 国際文化研究科・朱 琳

・目的

東アジア文化交渉学会・第8回国際学術大会(大阪・関西大学にて)に参加し、「パネル 近年における湖南研究の新しい進展」において、「内藤湖南の中国文化論について」という題で研究発表を行った。

・旅程

平成28年5月6日
仙台駅→(鉄道)→東京駅→(鉄道)→吹田
平成28年5月7日、8日
東アジア文化交渉学会・第8回国際学術大会に参加
平成28年5月9日
吹田→(鉄道)→東京駅→(鉄道)→仙台駅

・講演等内容について

日本における東洋史学の創始者の一人として、内藤湖南(1866~1934)は広く名を知られている。いままでの研究では、内藤湖南の中国論に注目したものが数多く存在するが、彼が自ら生きた同時代の日本、その基礎を作り上げた過去の歴史および来たるべき将来像をどのように認識していたのか、ということと関連付けながらその中国論を考察する研究が少ない。本報告は、湖南の中国文化論と日本との関連の一面を解明することを目的とする。

* 専門分野: アジア政治思想史

* 問題関心: 近代日中知識人の知的連鎖と文化交流(とりわけ、明治・大正期の日本思想と清末民国初期の中国思想の関連および影響関係)

* 主な研究テーマ:

- ①中国史像と政治構想——内藤湖南と梁啓超との比較
- ②大正期における日中の思想連鎖——「聯邦制」を中心に
- ③近代日本の東洋史学の構築と日中知識人の文化交流——上海東文学社を手がかりに

・本制度を利用することによって得られた効果

今年の内藤湖南生誕150周年にあたり、『内藤湖南全集』刊行後の文献収集と解説;
②近年における湖南研究の新しい進展、といった二つのパネルが組まれている。

今回の学術大会では、①『内藤湖南全集』刊行後の文献収集と解説; ②近年における湖南研究の新しい進展、といった二つのパネルが組まれている。

①では、『内藤湖南漢詩酬唱墨跡』や『内藤湖南全集拾遺』、『内藤湖南青年期書簡』などの近刊情報を得、新資料を今後の研究に活用させたい。②は私も参加するパネルであるが、各角度からのコメントと質疑をいただき、今後の研究の深化につながるに違いない。

また、国際学術大会であるため、各専門分野の研究者と知り合い、交流することができたのも今回の大きな収穫の一つである。